

平成30年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立松任高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
1 授業規律の維持に努め、落ち着いた学習環境のもと、確かな学力を身に付けさせ、進路実現を支援する。	① すべての生徒が授業を受ける基本的態度を身につけられるように指導する。	教務課 各教科 各学年	私は私語や居眠りをせずに集中して授業に参加している、という項目に当てはまる、大体当てはまると答えた生徒の割合が A 80%以上である。 B 70%以上80%未満である。 C 60%以上70%未満である。 D 60%未満である。	B 78.7%	中間報告の79.5%よりもわずかに減少したが、昨年度最終報告の69.7%よりも高い結果を維持できた。生徒による授業評価の結果では、「教員が私語や居眠りを注意している」割合が88.9%に増加したので、生徒への指導の徹底が、生徒の授業態度に表れている。
	② 授業の工夫、授業公開・公開授業研究会の充実等とおして、授業力の向上を図り、生徒の理解を深める。	教務課 各教科	私は授業内容に興味・関心が持てる、理解できるという2つの項目に当てはまる、大体当てはまると答えた生徒の割合が A いずれも80%以上である。 B いずれかが70%以上80%未満である。 C いずれかが60%以上70%未満である。 D いずれも70%未満である。	B 79.2%	「興味・関心が持てる」中間報告79.9%から79.0%に減少「理解できる」中間報告78.9%から79.3%に増加した。昨年度の最終報告はそれぞれ80.1%、78.8%であったのでわずかながら、理解はできるが、興味・関心が持てない傾向がある。一方で、「発展的な授業」を希望する割合が増加していることから興味・関心を持たせるには、発展的な内容を、増やしてみることも必要かもしれない。
	③ 家庭での学習習慣の確立を図り、家庭学習時間の増加を目指す。	教務課 各教科 各学年	平均1日1時間を超えている生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上60%未満である。 C 40%以上50%未満である。 D 40%未満である。	A 73.5%	中間報告76%から減少したが、昨年度同時期の集計の71%より増加となった。0時間の生徒について、中間報告からの変化は、1年は8人から1人、2年は3人から0人、3年は14人から20人であった。進路先の決まった3年生の指導も必要であるが、今年度の3年生は2年生の頃から0時間の生徒が20人近くいた。入学時からの指導も重要であると考えられ、来年度の新入生にも期待したい。
	④ 1年次より進学希望者に対しガイダンス機能を高め、個別指導や支援体制を強化することで入試結果満足度90%以上を目指す。	進路指導課 3学年	3年生進学希望者で自分の入試結果に満足している生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	B 84.1%	推薦入試やAO入試で進学する生徒の割合が高く、専願では100%合格できたが、併願可の推薦入試では苦戦した。併願可で合格できる学力の育成が課題であり、推薦入学対策が重要である。また、今年度は指定校推薦の枠が十分活用できなかった。進学希望者の基礎学力を基盤とする早期の目標設定が課題である。
	⑤ 1年次よりキャリアに対する意識を高め、就職希望者全員の内定を実現するとともに、内定先満足度90%以上を目指す。	進路指導課 3学年	3年生就職希望者で自分の内定先に満足している生徒が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	A 90.0%	学校紹介を希望する生徒の98%の就職が決定した。第1志望で合格した生徒がほとんどである。一方、卒業決定後に、非正規雇用を含め選択する生徒も若干名在籍し、多様な生徒に対応しながらも、「望ましい職業観の育成」が今後とも重要である。
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の教室掲示により毎年効果が出ていると思われる。授業参観して、生徒の学習に望む姿勢が良くなってきた。ワークシートを使う先生が増えている。 ・3年生の進学・就職の満足度は高いが、進路決定後のモチベーションの維持を考えてほしい。 		
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策			<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定後の指導はハローワークやいろいろな外部講師を迎えての講義・演習など取り入れて意識付けを高めていく。 		

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
2 挨拶の励行、端正な服装容儀、遅刻・欠席の減少等、のぞましい生活習慣を確立させ、心豊かで安心感のある学校づくりを促進する。	①	生徒会課 生活指導課 各学年	自ら挨拶をする生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である	B 83.9%	昨年度の調査では挨拶運動に参加する生徒数は年間延べ869人、一人平均1.8回であった。今年度は、生徒の内面的な成長をとらえるため、調査項目を「自ら挨拶をする生徒の割合」に変更した。授業の始まりと終わりの挨拶の励行や日常的な声掛け(挨拶)により、1年86.5から80.5%、2年84.1から85.0%、3年89.4から85.5%(前期から後期)となっている。今後は90%以上を目指して、笑顔あふれる明るい雰囲気作りを推進していく。
	②	各学年 総務課 生活指導課	自分は服装、容儀を端正に整えて学校生活に臨んでいると思う生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	A 93.3%	前期と後期を比較しても差はなく、各学年を比較しても90%以上の肯定的評価をしているので全教員の協力のおかげで成果が出ていると言える。
	③	生活指導課 各学年 相談室	月ごとおよび年間の遅刻回数0の生徒の割合が A 90%以上である。 B 85%以上90%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	D 60.0% 180人	前期の時点で79.2%と目標数値を下まわっていたが、さらに約20ポイント下落し、また、遅刻経験者数が倍増していることから、遅刻に対する規範意識が低下しているといえる。遅刻防止ポスターの作成を行ったが、効果は薄かった。朝一番に限らず、気持ちよく集団行動を始めるために必要なこととして、時間厳守の視点で指導に取り組むことが重要である。次年度に向けて早急に始動する。
	④	生活指導課 各学年	いじめの早期発見に努めるとともに、いじめを察知した場合には職員間で必要な情報を共有し、組織的かつ迅速に対応できていると評価する職員の割合が A 100%である。 B 90%以上100%未満である。 C 80%以上90%未満である。 D 80%未満である。	B 97.6%	いじめアンケートや面談、生徒のきめ細やかな観察を通じて、トラブルの早期発見に努めてきた。生徒に「いじめ問題対策チーム」を周知し、学校としていじめは許されない行為であるとの姿勢を示してきた。いじめの可能性があると判断した場合には対策チームによる組織的な対応で継続的な見守りを行っている。今後は全職員への情報共有のあり方について再検討し、100%を目指す必要がある。
	⑤	相談室 各学年	職員間で気になる生徒の情報を共有し、関係機関と連携し、チームで生徒の支援ができていてと評価する職員の割合が A 100%である。 B 90%以上100%未満である。 C 80%以上90%未満である。 D 80%未満である。	B 92.6%	保健室と相談室、担任で気になる生徒の迅速な情報共有を図ってきた。必要に応じて、スクールカウンセラーや外部機関のアドバイザーから専門的な助言をしてもらい、個別支援に活用することができた。今後は教科担当者とのさらなる情報共有に努めていく。
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、服装容儀は評価は高いが、朝の自動車による送迎のマナーが悪い。学校の教員が前に出て指導をしたりしているが、悪天候時がひどい。 ・遅刻指導は是非保護者側からも指導したい。 ・学校経営計画の重点目標の焦点化ができないか。アンケート結果がおおむね前期から後期は下がるのは仕方ないのか。 		
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策			<ul style="list-style-type: none"> ・送迎のマナーについてはチラシの配付、メール配信など手を尽くしているが、PTA会報に載せるなどPTAとの協力も考えていきたい。 ・アンケート結果が下がるのは項目別に再検討したい。 		

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
3 練習と休養のバランスのとれた部活動、ボランティア活動等の生徒会活動を推進することで、心身ともに健やかな生徒を育成する。	① 部活動加入を促進すると共に継続して部活動に参加することの大切さを理解させる。	生徒会課 生活指導課 各学年	継続して部活動をしている生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	C 79.3%	4月と12月の比較では、原則全員加入の1年生は90.1%が84.3%、2年生は76.9%が78.1%、1・2年生全体では83.0%が79.3%であった。(昨年度70.8%)。3年生はほぼ変化していないが、学校全体としては75.3%と加入率が低下した。退部理由としては転部や習い事、人間関係や勉強との両立困難などが目立った。1年生の当初から加入した生徒は概ね継続しているため、入学当初に部活動の有為性と継続の大切さを伝えていくこと、退部後も部活動に新たに加入することを促す取り組みを検討したい。
	② シヤトルランを実施し、持久力の向上を目指したランニングや筋力トレーニングを体育の導入時に実施し、心肺機能と全身持久力の向上を目指す。	各学年 総務課 生活指導課	4月と10月のタイムを比較して向上した生徒の割合が A 75%以上である。 B 65%以上75%未満である。 C 55%以上65%未満である。 D 55%未満である。	D 35.7%	20mシヤトルランの回数が上昇した生徒の割合(4月～10月)が55%未満であった。原因としては、1・2年生については、運動部活動の加入率が低く、授業の体育しか運動をする機会がないため体力の向上が見られないこと、3年生については、運動部活動を引退し、運動をする機会が減少したことが考えられる。改善点については、運動部活動の加入率を上げ、体育の授業だけでなく、放課後の時間を利用して体力の向上を図るとともに授業のはじめに生徒が継続可能な体カトレーニングを取り入れていく。
	③ 生徒会、部活動、各種委員会、学年での地域交流や貢献活動への参加の機会を増やす。	生活指導課 各学年 相談室	部活動等で外部(地域)の活動に参加した延べ回数が A 50回以上である。 B 40回以上50回未満である。 C 30回以上40回未満である。 D 30回未満である。	A 170回	フェンシング部の103回(教室)を除いて運動部が16回(9/12)、文化部が50回(6/11)、保健委員会1回実施した。24の部・同好会中16部(全体の2/3)と1委員会が活動を行った。運動部は中学生やシニアとの試合や関連施設の清掃などの活動が多く、文化部は訪問演奏等のボランティア活動が多かった。今年度新たに始めた保健委員会の奉仕運動や生徒会が白山ふるさとかるた小学生大会補助員をするなど、活動への意識は高まってきた。今後継続した活動になるようにしていくこと、活動の幅を広げることが大切である。
	④ 生徒保健委員を中心に、生徒全体に対して睡眠や食事等の大切さについて伝え、自己の健康管理能力を向上させる。	生活指導課 各学年	私は、睡眠や食事をとる意識が高まってきているという項目に当てはまる、大体当てはまると答えた生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上70%未満である。 C 50%以上60%未満である。 D 50%未満である。	A 79.9%	生活習慣に関する調査を毎月実施し、その結果を保健だよりにのせることで、生徒が自身の生活習慣を振り返る機会とした。メール配信やHP掲載も行い、家庭での協力を呼びかけた。文化祭では生徒保健委員会が「睡眠と食事の重要性」について取り組んできた内容の発表と展示を行った。今後も定期的に調査と結果分析を行い、生徒の自己管理能力が向上するよう取り組んでいく。
4 生徒・保護者・地域の理解を得ながら、教職員の多忙な勤務状況を改善し、質の高い教育活動の継続に努める。	① 職員がワークライフバランスを意識して計画的かつ効率的に業務を遂行する。	教頭	前年度よりも仕事の効率化や超過勤務時間の削減を意識して取り組んでいる職員が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	A 92.7%	国や県をあげて「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を打ち出し、本校でも行事予定を工夫する等取組を行っており、担任業務の準備や大会前の部活動指導で超過勤務が増える場合があったが、月1回の定時退校日の設定、定期試験や長期休業期間の定時退校を意識して校務を行うことにより、職員の意識啓発と環境整備を進めていく。
5 学校の取り組みや生徒の活動への理解を深めるため、広報活動の充実を図り、保護者・地域から信頼される学校づくりに努める。	① 学年や各課からの通信の発行やホームページの更新、メール配信を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	各学年 各課 各部 情報管理室	広報活動(各種通信、メール配信、HP等)が充実しており学校の取り組みに対して理解が深まったと答える保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上90%未満である C 70%以上80%未満である D 70%未満である	B 80.6%	上半期の評価「大体以上が83.2%」と比べて微減したが、昨年度と比べ通信の発行やホームページの更新、メール配信は定着しリアルタイムに取り組むことができています。より良い情報発信ができるようにPTA役員会等で改善点など情報収集していきたい。また、メール配信登録100%を目指し保護者に案内していきたい。
学校関係者評価委員会の評価			・地域交流で白山市との「マルシェ/ハクサン」はPTAとしての協力は楽しかった。好評だった「炊き込みご飯」には是非本校オリジナルのネーミングをつけて商品を販売できないか。 ・2月に行ったPTAと生徒会の意見交流会は、とても良い意見が出た。ここで出た意見を少しずつ実現できたらよい。		
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策			・生徒が活躍して自己肯定感を高めるような行事をどんどん取り入れていきたい。 ・情報の発信は手続きを簡素化し、どんな先生も発信できるように今年度から工夫している。		